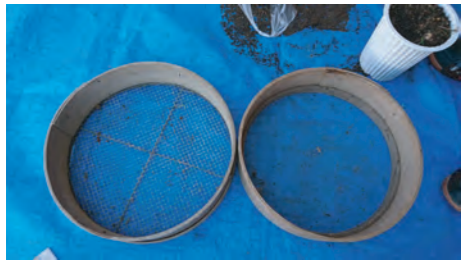




古い土のリサイクル方法

土をリサイクルして使うには、土を殺菌しなければいけません。殺菌する方法は、日光消毒、熱湯をかける、使い古したフライパンで焼く、などの方法がありますが、今回は日光消毒による殺菌方法を紹介いたします。

- ◆用意するもの◆
- ・使用済みの土
 - ・黒いビニール袋
 - ・ガムテープ
 - ・ジョウロ
 - ・ふるい
 - ・新聞紙/トレイ
- (目の粗いもの・目の細かいものの2種類)



1 目の粗いふるいと、目の細かいふるいの2種類を用意します。



2 下段に目の細かいふるい、上段に目の粗いふるいを重ねて、使用済みの土をふるいに入れます。



3 古い根やゴミ等をできるだけ取り除きます。虫がいないか、異臭がしないか等よく観察しましょう。



4 新聞紙かトレイなどを敷き、目の粗いふるいを使って、細かいゴミ等を振り分けます。



5 目の細かいふるいにかけて、さらに土を分別します。



6 ふるいを通らなかった粗い土やゴミ等は捨てます。



7 ジョウロを使って、土全体を湿らせます。



8 黒いビニール袋に土を入れ、外部から虫などが入らないようにガムテープでしっかりと封をします。

8の状態を2週間程度日光に当てて殺菌します。出来るだけ日光に当てるのが望ましいですが、雨の場合はあたらぬようビニールシートをかける等の対策をしましょう。

日光で殺菌した土は、良い菌も悪い菌も死んでしまっている状態なので、使用するときには堆肥や腐葉土等の有機物、元肥をしっかりと混ぜて使用しましょう。

Q. 土のリサイクル材はどうやって使えばいいの？

消毒が終わった土は、植物が育つための栄養は足りない状態です。ですので、古い土に腐葉土や堆肥、培養土、土壌改良剤などを土に混ぜ込んで栄養を補充します。

市販のリサイクル材を使用する場合は、古い土に対して3~4割ほど混ぜ込みます。(製品によって混ぜる割合が異なるので、製品の使用法をよく確認してください) さらに、新たに植物を植え付けるときに、苦土石灰や有機石灰、肥料を混ぜて使います。



質問コーナー

Q. 「有機化成肥料」ってなに？ 「バーク堆肥」ってなに？

有機化成肥料は、簡単に言うと、有機質肥料と無機質肥料が混ざっている肥料の事をいいます。有機質肥料は緩効性肥料が多いですが、無機質肥料は即効性肥料が大半を占めます。また、土を柔らかくするのが有機質肥料、徐々に固くなっていくのが無機質肥料です。つまり有機質肥料と無機質肥料の良い所取りをした肥料です。有機成分の内、窒素分が10パーセント以上含まれていれば「有機」と表記できます。(商品によって窒素分の割合が異なるので、購入の際は確認してください。)

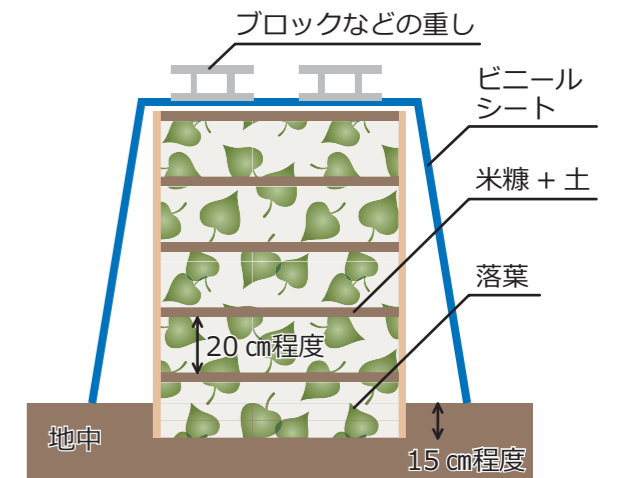
バーク堆肥は、分類が大変難しいですが、厳密には肥料ではなく土壌改良材になります。さらに細分化すると動植物質の堆肥類になります。しかし堆肥は特別肥料として定められています。つまり肥料の特性と用土の特性を併せ持った資材のことです。

Q. 堆肥の作り方が知りたい！

堆肥には、落葉堆肥(腐葉土)、バーク堆肥、籾殻堆肥、生ごみ堆肥(コンポスト)、牛糞・鶏糞等様々な種類がありますが、ここでは落葉堆肥の作り方を紹介します。

簡単な方法は、庭の隅などに穴を掘り、落ち葉を入れてビニールシートを穴全体に被せて2、3ヶ月置きます。その後シートをはずして中を攪拌し、さらに2、3ヶ月置いておく...を繰り返す、葉の形がなくなれば完成です。

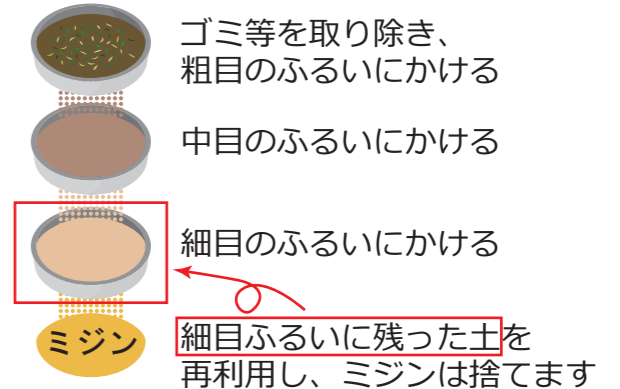
もう少し早く作る方法は、木の板やポリタンクなどの囲いを15cm程度地中に埋まるように設置し、落葉と米糠、土を20cm程度ずつ水を掛け、踏み固めながら交互に重ね入れます。5層重ねたらビニールシートとブロックで雨避けをします。2か月程度置き、中を攪拌します。その後は20日おきに中を攪拌し、葉の形がなくなれば完成です。



Q. 使用済みの土はミジンばかりでは？

今回のWSで行った土のリサイクル方法では、2種類のふるいを使用しましたが、更に丁寧にやる方法として、粗目、中目、細目の3段階ふるいにかけることでミジンを取り除くことが出来ます。

ミジンが無い方が、排水性がよく、根詰まりが起きにくい土になるので、道具をお持ちの方はぜひ試してみてください。



Q. 土をリサイクルする時、ふるいが無かったらどうすればいいの？

ふるいはホームセンターで1000円前後で購入できるので、機会があれば購入してみましょう。ふるいがない場合は、大きな根やゴミ、土の塊や石等を取り除き、使い古したザルを使用するのも一つの手ではないでしょうか。

Q. 「消石灰」と「苦土石灰」の違いは？

石灰の使用目的は酸度調整です。大半の植物は弱酸性から中性が適していますが、土壌は雨などで徐々に酸性になっていきます。石灰類を混ぜることにより土壌を中和してくれます。

アルカリ成分が高いのが消石灰です。苗を植える2週間前に土壌に撒きます。肥料分と同時に入れるとアンモニアガスが発生するので、肥料分は消石灰の1週間後に入れます。

苦土石灰は消石灰+マグネシウムを含む石灰のことをいいます。消石灰に比べ中和反応が穏やかなため、肥料分を直ぐ混ぜてもあまり問題ありません。苗の植付まで数日置いた方が良いでしょう、すぐに植付けても問題ありません。